



2024年2月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2024年1月15日

上場会社名 株式会社 ワイズテーブルコーポレーション
コード番号 2798 URL <https://www.ystable.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 船曳 睦雄

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 武本 尚子

TEL 03-5412-0065

四半期報告書提出予定日 2024年1月15日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年2月期第3四半期の連結業績(2023年3月1日～2023年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年2月期第3四半期	8,301	17.6	111		194	141.6	30	
2023年2月期第3四半期	7,058		401		80		150	

(注) 包括利益 2024年2月期第3四半期 30百万円 (%) 2023年2月期第3四半期 150百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年2月期第3四半期	9.38	
2023年2月期第3四半期	49.77	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年2月期第3四半期	4,774	272	5.7	82.69
2023年2月期	5,020	303	6.0	92.06

(参考) 自己資本 2024年2月期第3四半期 272百万円 2023年2月期 303百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年2月期		0.00		0.00	0.00
2024年2月期		0.00			
2024年2月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年2月期の連結業績予想(2023年3月1日～2024年2月29日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	11,188	14.4	173		280	90.3	53		16.23

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年2月期3Q	3,298,400 株	2023年2月期	3,298,400 株
期末自己株式数	2024年2月期3Q	236 株	2023年2月期	236 株
期中平均株式数(四半期累計)	2024年2月期3Q	3,298,164 株	2023年2月期3Q	3,024,864 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績等の見通しは、当社が現時点において合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は見通しと異なることがあります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(追加情報)	10
(セグメント情報等)	11
3. その他	13
継続企業の前提に関する重要事象等	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、2023年3月にマスクの着用が個人の判断に委ねられたこと、5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが変更されたこと等により経済活動の正常化が進んだ一方、円安の進行やウクライナ情勢、イスラエル・パレスチナ情勢等に起因した物価上昇等もあり、景気の先行きは依然として不透明な状況です。

外食業界におきましては、消費者の外食需要が経済活動の正常化につれて回復してきたものの、2023年7月から8月にかけての猛暑や新型コロナウイルス感染症の感染拡大等による減速もみられました。人手不足や食材費等の価格高騰も続いており、事業環境は依然として厳しい状況です。

このような状況の下、当社グループは、人手不足、コスト高騰、そして事業環境の変化といった課題への対応に取り組んでまいりました。

当第3四半期連結累計期間におきましては、外食需要の回復や国内外からの旅行客の増加等により売上高は好調に推移してまいりました。8月及び9月においては、昨年から続く物価上昇に加え、猛暑や、新型コロナウイルス感染症の陽性者数の増加等によって消費者の外食需要が減退し、売上高が伸び悩みましたが、10月以降は再び回復基調となりました。なお、前年同期との比較におきましては、前年同期はコロナ禍の影響を強く受けた状況であったことから、売上高、利益ともに大幅に回復しております。

これらの結果、売上高は8,301百万円（前年同期比17.6%増加）、営業利益は111百万円（前年同期は営業損失401百万円）となりました。また、営業外収益として持分法による投資利益45百万円を計上したこと等により、経常利益は194百万円（前年同期比141.6%増加）となりました。特別損失として減損損失192百万円を計上したこと等により、親会社株主に帰属する四半期純損失は30百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失150百万円）となりました。

当第3四半期連結累計期間におけるセグメントの状況は次の通りであります。

①XEXグループ

「XEX」をはじめとする高級レストラン事業であるXEXグループについては、引き続き、高付加価値化の方針のもとでブランド力向上のための企画や、インバウンド需要の取り込みに取り組んでまいりました。当第3四半期連結累計期間におきましては、8月及び9月にかけては、物価上昇や猛暑、新型コロナウイルス感染症の陽性者数の増加等の影響により売上が落ち込みましたが、10月以降は堅調に推移しております。なお、前年同期との比較におきましては、前年はコロナ禍の影響を強く受けていたことから、売上高は大幅に増加しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の同グループの売上高は3,294百万円（前年同期比20.7%増加）、営業利益は255百万円（前年同期比397.5%増加）となりました。なお、店舗数は直営店9店舗となりました。

②カジュアルレストラングループ

カジュアルレストラングループについても、付加価値の向上と客単価の引き上げに努めてまいりました。イートインの営業につきましては、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けの変更により、都心部に出勤する方が増加し、また企業における外食に関するルールの緩和が進んだ結果、順調に回復してまいりました。XEXグループ同様、8月及び9月には停滞したものの、10月以降は回復に転じました。デリバリーの営業につきましては、外食需要の回復に伴って需要が低下したことに加え、デリバリーを行う人手の不足もあり、売上高はコロナ禍前である2019年の水準を下回りました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の同グループの売上高は5,006百万円（前年同期比15.6%増加）、営業利益は506百万円（前年同期比205.6%増加）となりました。

店舗の状況につきまして、出退店では、「PIZZA SALVATORE CUOMO おもろまち」を新規に出店する一方、直営店「SALVATORE CUOMO & BAR 蒲田」及び「STEAK THE FIRST 北新地」、並びにFC店「PIZZA SALVATORE CUOMO 三井アウトレットパーク北陸小矢部」及び「SALVATORE CUOMO & BAR 万座ビーチ」を閉店いたしました。また、FC店であった「PIZZA SALVATORE CUOMO センター南」及び「PIZZA SALVATORE CUOMO 網島」を直営化し、それぞれ、「PIZZA & PASTA SALVATORE センター南」及び「SALVATORE CUOMO & BAR 網島」としてリニューアルオープンいたしました。直営店であった「PIZZA SALVATORE CUOMO 代々木」はFC企業に売却し、「SALVATORE CUOMO & BAR 代々木」としてリニューアルオープンいたしました。このほか、直営店「STEAK THE FIRST 高田馬場」の業態を変更し、「SALVATORE CUOMO & GRILL 高田馬場」としてリニューアルオープンいたしました。店舗数は直営店38店舗、FC店28店舗となりました。

③その他

その他は、人材派遣事業（ただし同事業は休眠中）により構成されております。当第3四半期連結累計期間の同グループの売上高は一百万円（前年同期は売上高一百万円）、営業損失は1百万円（前年同期は営業損失1百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は2,966百万円となり、前連結会計年度末に比べ86百万円減少いたしました。これは主として、短期借入金を返済したこと等による現金及び預金の減少206百万円、売上高の増加等による売掛金の増加167百万円等によるものです。固定資産は1,807百万円となり、前連結会計年度末に比べ160百万円減少いたしました。これは主として、減損損失及び減価償却費を計上したこと等による建物及び構築物の減少41百万円、返済を受けたことによる長期貸付金の減少60百万円等によるものです。

この結果、総資産は4,774百万円となり、前連結会計年度末に比べ246百万円減少いたしました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は1,888百万円となり、前連結会計年度末に比べ570百万円減少いたしました。これは主として、返済による短期借入金の減少721百万円及び1年内返済予定の長期借入金の減少76百万円、仕入高の増加による買掛金の増加99百万円、営業活動の活発化等による未払金の増加125百万円等によるものです。固定負債は2,613百万円となり、前連結会計年度末に比べ355百万円増加いたしました。これは主として、金融機関借入金の返済期間を長期化したことによる長期借入金の増加370百万円等によるものです。

この結果、負債合計は4,501百万円となり、前連結会計年度末に比べ215百万円減少いたしました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は272百万円となり、前連結会計年度末に比べ30百万円減少いたしました。これは主として、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上30百万円等によるものです。

この結果、自己資本比率は5.7%（前連結会計年度末は6.0%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間の業績等を踏まえ、2023年10月13日に公表いたしました2024年2月期通期連結業績予想を修正いたしました。詳細については、本日公表いたしました「特別損失の計上及び2024年2月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,041,056	1,834,858
売掛金	546,777	714,084
原材料及び貯蔵品	136,166	161,374
その他	329,444	262,632
貸倒引当金	△54	△6,225
流動資産合計	3,053,389	2,966,724
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	652,908	610,942
その他(純額)	196,512	138,151
有形固定資産合計	849,421	749,094
無形固定資産		
その他	6,295	4,613
無形固定資産合計	6,295	4,613
投資その他の資産		
投資有価証券	65,073	110,876
長期貸付金	378,101	318,101
敷金及び保証金	568,643	552,643
その他	139,866	111,987
貸倒引当金	△40,000	△40,000
投資その他の資産合計	1,111,685	1,053,609
固定資産合計	1,967,401	1,807,317
資産合計	5,020,791	4,774,041
負債の部		
流動負債		
買掛金	402,881	502,492
短期借入金	721,399	-
1年内返済予定の長期借入金	299,650	222,932
未払金	549,998	675,490
未払法人税等	6,746	3,130
契約負債	51,361	74,656
株主優待引当金	57,525	40,403
その他	369,614	369,151
流動負債合計	2,459,176	1,888,257
固定負債		
長期借入金	1,374,777	1,744,947
資産除去債務	804,777	810,876
その他	78,426	57,242
固定負債合計	2,257,981	2,613,066
負債合計	4,717,158	4,501,324

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年11月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	50,000	50,000
資本剰余金	375,831	375,831
利益剰余金	△121,839	△152,778
自己株式	△556	△556
株主資本合計	303,436	272,497
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	196	219
その他の包括利益累計額合計	196	219
純資産合計	303,632	272,717
負債純資産合計	5,020,791	4,774,041

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年11月30日)
売上高	7,058,310	8,301,142
売上原価	6,062,297	6,661,623
売上総利益	996,012	1,639,518
販売費及び一般管理費	1,397,884	1,527,933
営業利益又は営業損失(△)	△401,871	111,585
営業外収益		
受取利息	6,090	5,490
助成金収入	369,754	10,623
協賛金収入	63,921	26,764
持分法による投資利益	40,105	45,767
その他	35,360	24,435
営業外収益合計	515,232	113,082
営業外費用		
支払利息	22,121	13,951
支払手数料	-	14,433
その他	10,900	2,181
営業外費用合計	33,022	30,566
経常利益	80,339	194,101
特別損失		
減損損失	249,905	192,851
特別損失合計	249,905	192,851
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△169,566	1,249
法人税、住民税及び事業税	3,333	747
法人税等調整額	△22,350	31,440
法人税等合計	△19,016	32,188
四半期純損失(△)	△150,549	△30,938
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△150,549	△30,938

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年11月30日)
四半期純損失(△)	△150,549	△30,938
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	17	23
その他の包括利益合計	17	23
四半期包括利益	△150,532	△30,915
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△150,532	△30,915
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大に伴う日本政府による入国制限やまん延防止等重点措置、自治体からの自粛要請等は、訪日客及び国内外食需要に重要な影響を与えてまいりました。

当社グループにおきましては、2023年3月以降行動制限の緩和が進んだこと等を背景とする個人消費の活発化や、インバウンド需要の回復により、既存店の売上高は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大前である2019年に近い水準で推移してまいりました。8月から9月にかけては、昨年から続く物価上昇に加え、猛暑や、新型コロナウイルス感染症の陽性者数の増加等によって消費者の外出需要が減退し売上高が落ち込みましたが、9月後半からは再び回復に転じました。しかしながら、各種コストの高騰や人材確保にかかるコストの増加の影響等もあって一部の店舗は収益力の回復が遅れており、それらの店舗の資産について減損損失を計上した結果、当第3四半期連結累計期間では親会社株主に帰属する四半期純損失を計上いたしました。

消費者及び訪日客の外出に対する需要や行動の変化にはまだ見極めを要するとみられるなど、今後の事業環境はまだ不透明であり、当社グループを取り巻く環境は引き続き見通しの立てにくい状況が続くものと考えられることから、営業債務の支払い等の資金繰りに懸念が生じており、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

このような事象又は状況を解消するために、当社グループは、提供する付加価値と客単価のバランスを見直し客数の回復と売上高の確保を図るとともに、人手不足やコスト高騰といった課題への対策を実施し、収益を確保するための経営基盤を強化してまいります。また、出退店の意思決定の精度向上にも努めてまいります。

しかしながら、コロナ禍を経た消費者及び訪日客の外出に対する需要や行動に生じた変化が当社グループの想定とは異なっており、上記の施策により十分な効果を得ることができないという可能性も考えられることから、継続企業の前提に関する重要な不確実性が存在するものと認識しております。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表に反映しておりません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。なお、当該会計基準等の適用が、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

前連結会計年度の有価証券報告書(追加情報)に記載した、新型コロナウイルス感染症の影響に関する仮定について重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2022年3月1日 至 2022年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	XEX グループ	カジュアル レストラン グループ	計				
売上高							
外部顧客への売上高	2,727,829	4,330,480	7,058,310	-	7,058,310	-	7,058,310
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	2,727,829	4,330,480	7,058,310	-	7,058,310	-	7,058,310
セグメント利益又はセグメント損失(△)	51,392	165,781	217,174	△1,700	215,473	△617,345	△401,871

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、休眠中の人材派遣事業を含んでおります。

2 セグメント利益又はセグメント損失の調整額△617,345千円は、各セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費です。

3 セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第3四半期連結累計期間に、「XEXグループ」セグメントにおいて192,581千円、「カジュアルレストラングループ」セグメントにおいて57,323千円の減損損失を計上しております。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自 2023年3月1日 至 2023年11月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	XEX グループ	カジュアル レストラン グループ	計				
売上高							
外部顧客への売上高	3,294,264	5,006,877	8,301,142	-	8,301,142	-	8,301,142
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	3,294,264	5,006,877	8,301,142	-	8,301,142	-	8,301,142
セグメント利益又はセグメント損失(△)	255,686	506,770	762,457	△1,719	760,737	△649,152	111,585

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、休眠中の人材派遣事業を含んでおります。

2 セグメント利益又はセグメント損失の調整額△649,152千円は、各セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費です。

3 セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第3四半期連結累計期間に、「XEXグループ」セグメントにおいて82,148千円、「カジュアルレストラングループ」セグメントにおいて110,702千円の減損損失を計上しております。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大に伴う日本政府による入国制限やまん延防止等重点措置、自治体からの自粛要請等は、訪日客及び国内外食需要に重要な影響を与えてまいりました。

当社グループにおきましては、2023年3月以降行動制限の緩和が進んだこと等を背景とする個人消費の活発化や、インバウンド需要の回復により、既存店の売上高は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大前である2019年に近い水準で推移してまいりました。8月から9月にかけては、昨年から続く物価上昇に加え、猛暑や、新型コロナウイルス感染症の陽性者数の増加等によって消費者の外出需要が減退し売上高が落ち込みましたが、9月後半からは再び回復に転じました。しかしながら、各種コストの高騰や人材確保にかかるコストの増加の影響等もあって一部の店舗は収益力の回復が遅れており、それらの店舗の資産について減損損失を計上した結果、当第3四半期連結累計期間では親会社株主に帰属する四半期純損失を計上いたしました。

消費者及び訪日客の外出に対する需要や行動の変化にはまだ見極めを要するとみられるなど、今後の事業環境はまだ不透明であり、当社グループを取り巻く環境は引き続き見通しの立てにくい状況が続くものと考えられることから、営業債務の支払い等の資金繰りに懸念が生じており、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

このような事象又は状況を解消するために、当社グループは、提供する付加価値と客単価のバランスを見直して客数の回復と売上高の確保を図るとともに、人手不足やコスト高騰といった課題への対策を実施し、収益を確保するための経営基盤を強化してまいります。また、出退店の意思決定の精度向上にも努めてまいります。

しかしながら、コロナ禍を経た消費者及び訪日客の外出に対する需要や行動に生じた変化が当社グループの想定とは異なっており、上記の施策により十分な効果を得ることができないという可能性も考えられることから、継続企業の前提に関する重要な不確実性が存在するものと認識しております。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表に反映しておりません。